

面拡張の利用方法


文書管理番号：1251-01


Q. 質問

3D パースで、壁にできた隙間をふさぎたい。

3D パースで、壁や床にできた穴をふさぎたい。

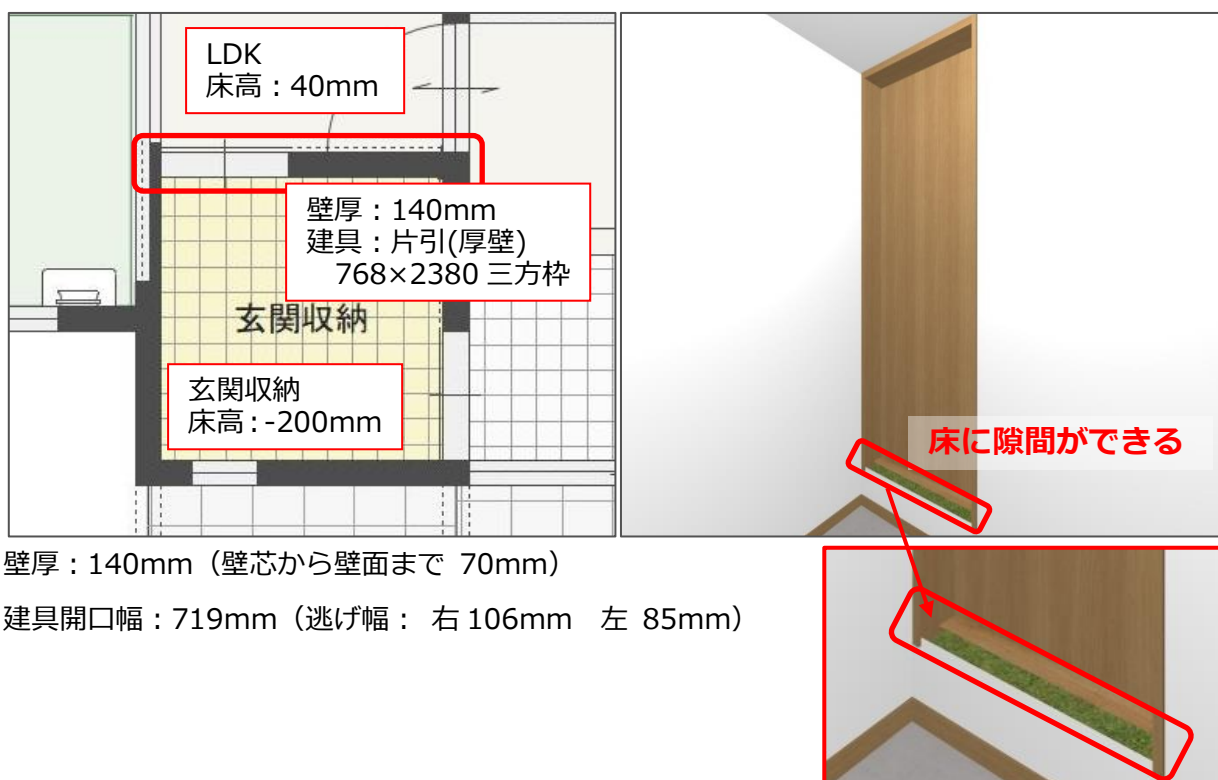
A. 回答

屋根の配置位置や、床高の違いなどによっては、 (3D パース) で壁や床などの面が期待する形状で生成されずに、穴が空いたり、欠けたりすることがあります。

そのような場合、 (3D パース) の「面拡張」を利用して、穴をふさいだり、欠けている箇所を埋めたりすることができます。

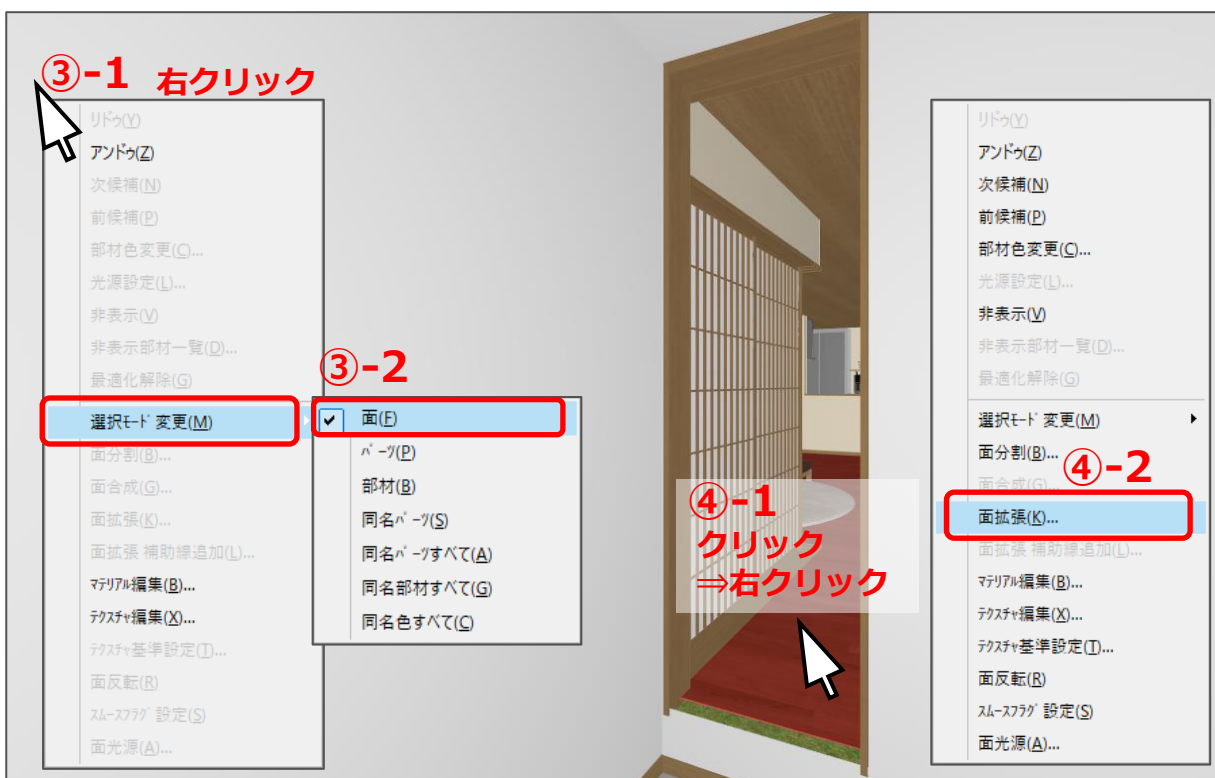
「面拡張」は、選択した面の形状を拡張する機能で、自動では対応しきれない複雑な外壁面や内壁面、天井面等あらゆる面の形状を自在に補正できます。

ここでは、以下のような床高の異なる部屋に、三方枠の建具を配置した場合にできてしまう、床面の隙間（穴）をふさぐ方法を例に説明します。



操作手順

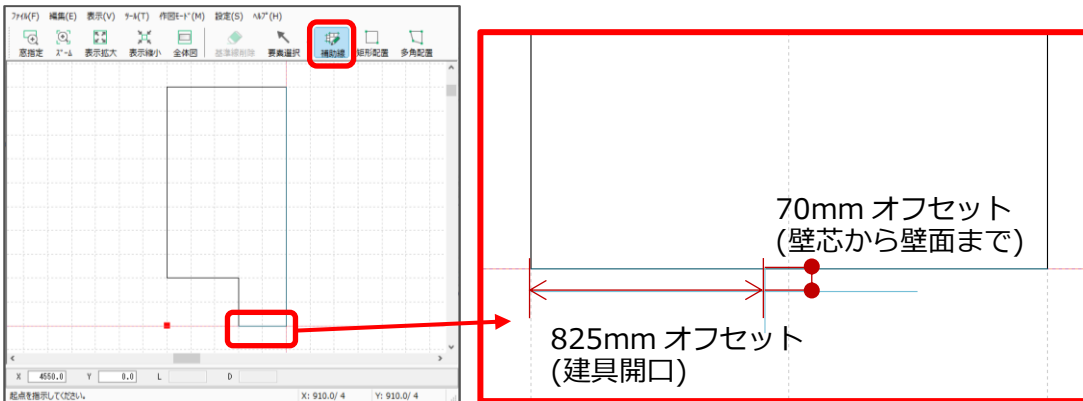
- ① ≡ (クイックメニュー)またはメインメニューから、🏠(3D パース)を起動し、視点位置を調整
 - * ここでは、玄関収納に視点位置を移動し、視野角等を調整します。
- ② 🗑️(建具開閉)をクリックし、片引(厚壁)にマウスを合わせてクリック
 - * ここでは、対象の床面を選択しやすいよう🗑️(建具開閉)をオンにして建具を開けます。
 - * 建具を開けた後は、🗑️(建具開閉)をクリックしオフにします。
- ③ 右クリックメニューから、選択モードを「面」に変更
 - * [スペース]キーや、画面右下に表示されている選択モードをクリックして変更してもかまいません。
- ④ LDKの床面をクリックし、右クリックメニューから「面拡張」をクリック



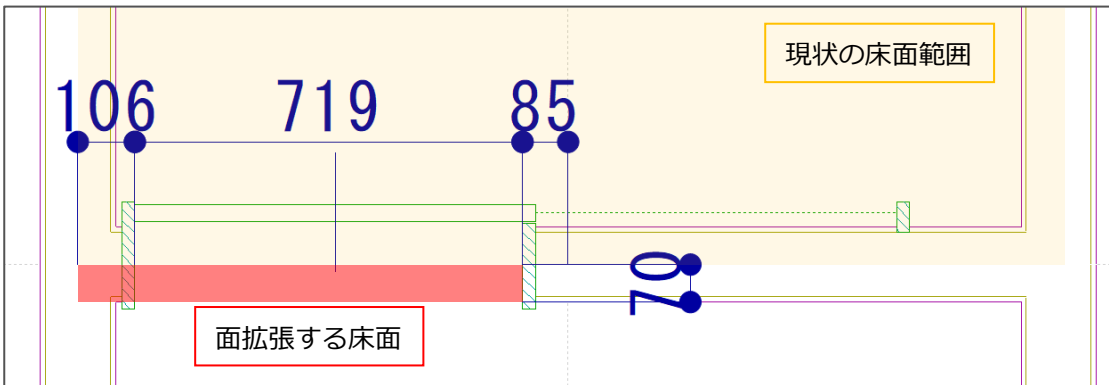
- * 面拡張の画面が表示されます。

⑤ (補助線)をクリックし、広げる床面の範囲を補助線で入力

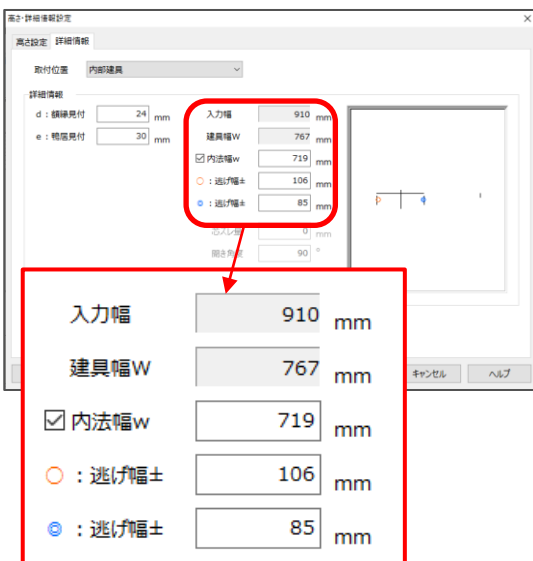
* ここでは、以下のように壁芯から壁面までの「70」mm と、建具の開口部を含む「825」mm の位置に補助線を配置します。



* 壁面までの「70」mm、建具の開口部を含む「825」mmの詳細は以下の通りです。

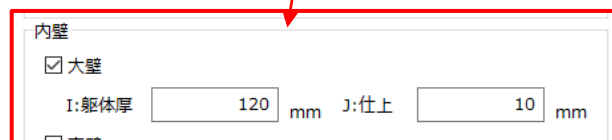
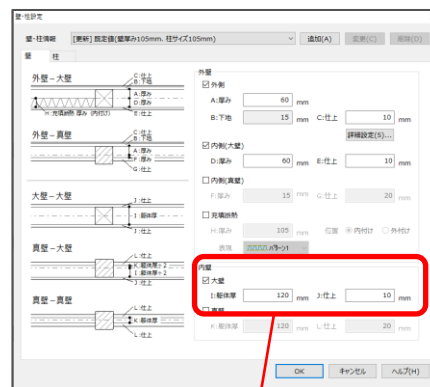


【建具開口】



逃げ幅○ : 106mm
 内法幅 w : 719mm
 $\Rightarrow 106\text{mm} + 719\text{mm} = 825\text{mm}$

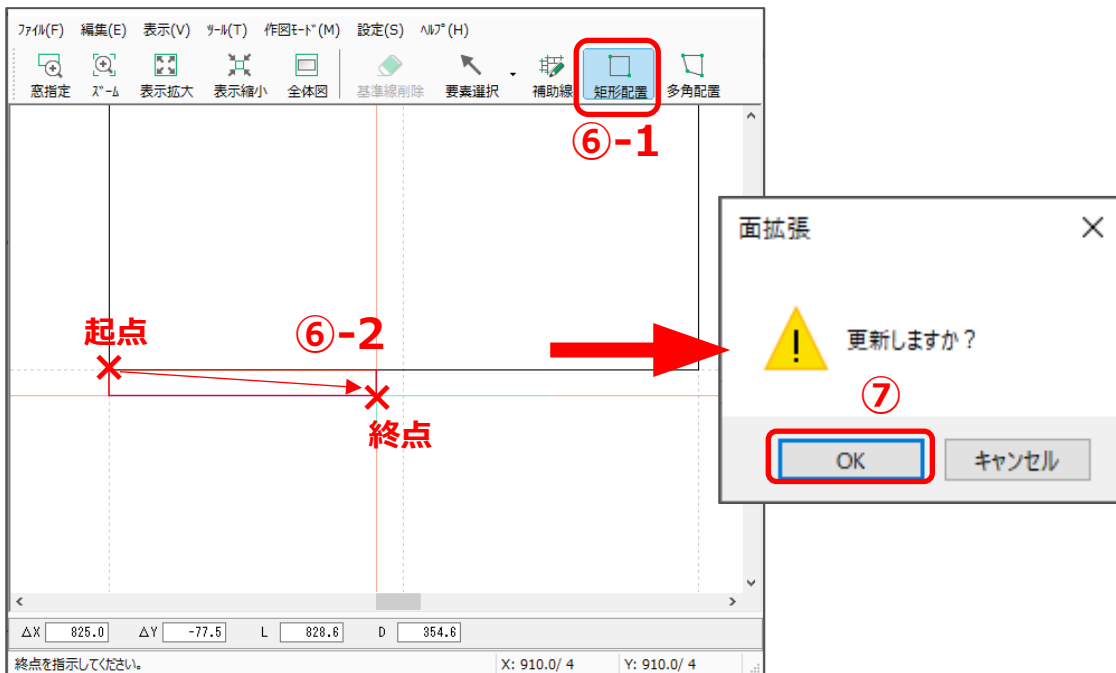
【壁芯から壁面まで】



躯体厚÷2 : $120\text{mm} \div 2 = 60\text{mm}$
 仕上 : 10mm
 $\Rightarrow 60\text{mm} + 10\text{mm} = 70\text{mm}$

⑥ (矩形配置)をクリックし、起点-終点で範囲を指定





⑦ 「更新しますか？」のメッセージが表示されるため「OK」をクリック




* 床面が広がり、床の隙間が埋まります。



参考：面拡張の連動

面拡張は、 (3D パース)、 (鳥瞰図)、 (カラー立面)で設定でき、それぞれのアプリケーションに連動します。また、 (立面図)にも反映します。

ただし、面拡張の編集内容は、面の位置、形状が変わると初期化されます。そのため、外壁の面拡張については、 (作成条件)の設定内容によって、アプリケーション同士が連動しない場合があります。

● 作成条件で「壁の最適化」が有効（チェックあり）の場合

「壁の最適化」が有効になっている場合は、3Dパース、カラー立面、立面図は同じ面拡張の内容が反映します。

鳥瞰図については、切断位置を設定することで、面の形状が他のアプリケーションと異なるため連動しません。

● 作成条件で「壁の最適化」が無効（チェックなし）の場合

「壁の最適化」が無効になっている場合は、条件によっては他のアプリケーションで設定した面拡張の内容が鳥瞰図にも反映します。

【例】2階建ての1階部分に面拡張を施し、鳥瞰図では1・2階とも表示（面拡張を施した階がすべて表示されている状態）で、2階を切断している

ただし、「壁の最適化」が無効になっていると、立面図を図面出力した際、階層を分ける線が出力されません。

【注意】

面拡張を行った後、作成条件の変更等を行った場合は、それぞれのアプリケーションごとに3次元化し直す必要があります。